

## 大野ダムの事前放流に係る実証実験の実施について

令和2年10月22日  
京都府建設交通部河川課  
大野ダム総合管理事務所

大野ダムで、事前放流の最終目標水位である標高150mまで水位を下げる実証実験を行いますのでお知らせします。

### ○事前放流の概要

台風等による大雨が予測される場合に、余裕のある堆砂容量を有効活用して事前放流を行うこととしており、予め貯水位を下げることで、異常洪水時防災操作（緊急放流）（注）への移行リスクを低減し、下流域の治水安全度の向上を図ることとしています。

大野ダムでは、最低水位の標高155mから2m下げた標高153mを目標水位とする事前放流の運用を、令和2年8月25日より開始したところですが、今回、更に3m下げた標高150mまで水位を低下させる実証実験を行います。

（注）異常洪水時防災操作（緊急放流）

計画を超える規模の出水によりダムの洪水調節容量を使い切る可能性が生じた場合、放流量を徐々に増加させ、流入量と同程度を放流する操作

### ○実証実験について

- 1 日 時 令和2年10月26日（月）13時～27日（火）17時  
（第1予備日 令和2年10月28日（水）13時～29日（木）17時）  
（第2予備日 令和2年10月29日（木）13時～30日（金）17時）  
※2日間にまたがって放流を行い、2日目9時半から放流量を増加します。

#### 2 目 的

- ・ダム管理施設（ダム管理用制御処理設備、除塵フロート等）への影響の確認
- ・貯水池及びダムからの放流水の水質（濁り）への影響の確認
- ・下流河川の状況（濁り、水位上昇）確認

#### 3 実験概要

- ・大野ダムからゲート放流し、貯水位を標高150mまで下げます。
- ・最大放流量は100m<sup>3</sup>/秒までとします。
- ・放流前にサイレンの吹鳴及び下流河川の巡視を行い、安全を確保します。
- ・降雨により流入量が多い場合（25m<sup>3</sup>/秒程度以上）等は、中止します。

#### 4 問い合わせ先

- ・京都府河川課総合治水係 電話 075-414-5288
- ・京都府大野ダム総合管理事務所 電話 0771-75-0143

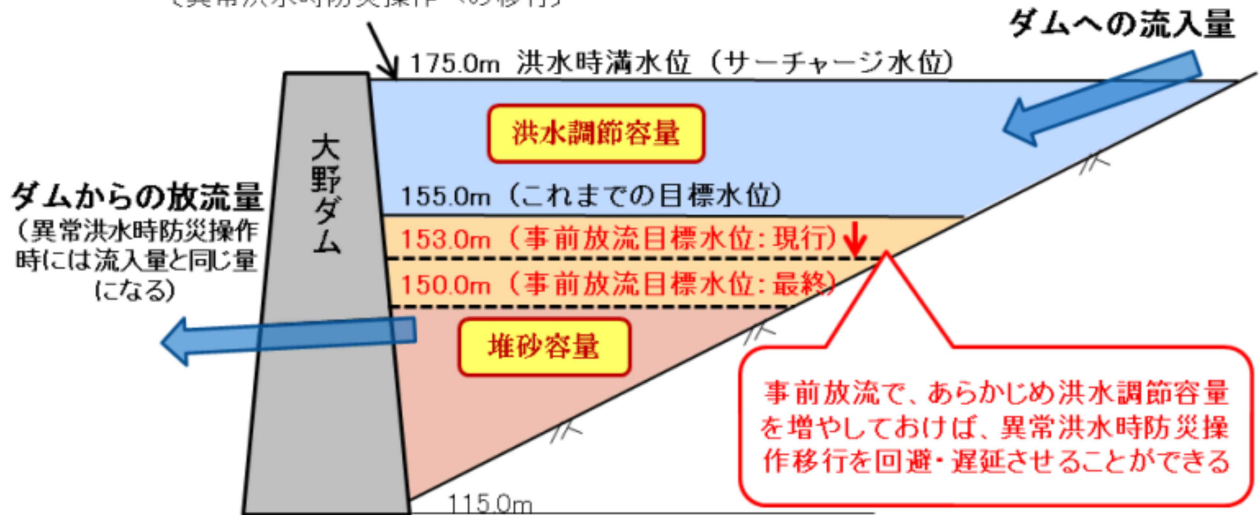
※前回の実験結果や中止等の情報については、  
京都府ホームページにてご確認ください。

<https://www.pref.kyoto.jp/dam/oono/index.html>



## 【事前放流のイメージ図】

貯水位が満杯(洪水時満水位)になれば、  
ダムに水を貯められない  
〔異常洪水時防災操作への移行〕



(事前放流により確保可能な容量)

洪水調節容量 2, 132万m<sup>3</sup>

目標水位標高153m (2m低下) 約 86万m<sup>3</sup> (計 2, 218万m<sup>3</sup>)

目標水位標高150m (5m低下) 約181万m<sup>3</sup> (計 2, 313万m<sup>3</sup>)

※令和2年8月25日より、目標水位標高153m (2m低下) での運用を開始。

### ○取組の経緯

平成31年3月 「京都府大野ダムの洪水調節機能と情報の充実に向けた検討会」において「事前放流目標水位の暫定的な引き下げ」について検討

令和元年5月 「平成30年度災害対応の総合的な検証」に位置づけ (のちに京都府防災計画、京都府総合計画にも位置づけ)

令和元年5月 最低水位から1m下げた標高154mまで水位を下げる実証実験を実施

令和元年10月 最低水位から2m下げた標高153mまで水位を下げる実証実験を実施

令和2年5月29日 由良川水系治水協定の締結

令和2年8月25日～ 目標水位標高153m運用開始

※実証実験の結果を踏まえ、令和3年出水期から目標水位標高150mの運用を開始する予定。

